

編集委員会からのお知らせ

編集委員会では、現在、Journal of Occupational Health (JOH) における Short communications および Rapid communications の論文種別を廃止し、新たに Brief reports という論文種別を新設し一本化することを検討しております。この理由は、Short communications および Rapid communications の区別が不明確であること、Short communications が不十分な研究成果の発表場所となり雑誌の質を下げる可能性があること、abstract が不要な Short communications は引用されにくい可能性があること等です。また、Short communications はこれまで後日、Originals として投稿可としてきましたが、二重投稿と見られる可能性があり、再考すべきとの意見がでておりました。

新しい Brief reports では、タイムリーな研究成果をコンパクトに掲載するという方針で、総ワード数、図表数、掲載ページおよび文献数に制限がある以外は Originals と同様の位置づけで、abstract もつけていただくことを考えております。同一内容での後日の Originals としての投稿は認めておりません。以下に現在の Short communications および Rapid communications の投稿規定、および Brief reports の投稿規定案（2009年6月30日現在）を参考までに示します。

旧「産業医学」以来の伝統を変更することになりますので、この件につきまして学会員の皆様からのご意見をいただきたいと思っております。ご意見を2009年8月31日までに、編集委員会 (joh-edit@ipecc-pub.co.jp) までお寄せください。

日本産業衛生学会 編集委員長
川上憲人

参 考

現在の Short communications および Rapid communications の投稿規定（関連部分抜粋）：

Short communications: Articles similar in content to originals, but prepared tentatively prior to completion of study. Details may be contributed later as an original article. (中略) The abstract is not required in short communications.

Rapid communications: Observation considered to be of the utmost importance that would lose scientific impact if not published promptly can be submitted as a rapid communication. An editorial decision will be made within 3 weeks after receiving the manuscript.

Brief reports の投稿規定案（関連部分抜粋）：

Brief reports: Article with a limited but original data, and having the same format as original one. (中略) Brief reports should not exceed 1,500 words, and contain no more than total 2 short tables or figures. (中略) Brief reports and Case studies should be limited to two printed pages (normally,

800-1,000 words (text base) per page) including references, tables and figures. (中略) For Brief reports and Case studies, the number of references should not exceed 15.

国際産業保健学会 (International Commission on Occupational Health, ICOH) からの報告

日本セクレタリー 堀江正知
(産業医科大学産業生態科学研究所・教授)
前日本セクレタリー 川上憲人
(東京大学大学院医学系研究科・教授)

国際産業保健学会 (ICOH) は、1906年にミラノで設立された、民間の、専門家による国際的な学会であり、労働安全衛生のさまざまな側面についての科学的研究の進展、知識の蓄積、展開を推進することを目的としています。日本産業衛生学会もその提携会員 (Affiliate Member) となっています。過日開催されました第29回国際産業保健学会大会 (ICOH2009, ケープタウン, 2009年3月22~29日) では、参加者1,362 (81カ国)、会員455人、非会員907人、同伴者167人と、前回よりはやや少ないものの、多数の参加がありました (主催者発表)。この際に、ICOHの会長および理事選挙の開票が行われました。

ICOH会長選挙は、小木和孝氏 352票、Renee Mendes氏 (ブラジル) 197票で、小木氏が会長に選出されました。アジアからの会長は初めてであり、快挙です。小木氏はこれからの3年間の任期中、ICOHを通じて世界の産業保健の発展に貢献される予定です。副会長はSuvi Lehtinen氏 (フィンランド) 382票、Bonnie Rogers氏 (米国) 212票であり、この2人が当選しました。Lehtinen氏が各国のセクレタリー (National Secretary) を、Rogers氏が科学委員会 (Scientific Committee) を担当します。事務局長はSergio Iavicoli氏 (イタリア) が再選されました。理事選挙は、得票順に、Marilyn Fingerhut氏 (米国)、Peter Westerholm氏 (スウェーデン)、Frank van Dijk氏 (オランダ)、Harri Vainio氏 (フィンランド)、John Harrison氏 (英国)、Antonio Mutti氏 (イタリア)、Giovanni Costa氏 (イタリア)、Jorge Morales-Camino氏 (メキシコ)、Mary Ross氏 (南アフリカ)、Sheng Wang氏 (中国)、Timo Leino氏 (フィンランド)、Michel Guillemin氏 (スイス)、Thomas Kieselbach氏 (ドイツ)、Seong Kyu Kang氏 (韓国)、Claudio Taboada氏 (アルゼンチン)、川上憲人 (日本) でした。最下位の川上の得票は170票で、次点のMoen氏 (ノルウェー) との差は5票でした。次期 (2009~2011) の科学委員会の役員についても改選が行われ、日本からは神代雅晴氏 (Aging and Work委員会委員長)、大槻剛巳氏 (Allergy and Immunotoxicology委員会事務局長)、井谷 徹氏 (Occupational Health in Small-Scale Enterprises and the Informal Sector委員会委員長)、日下幸則氏 (Respiratory Disorders委員会委員長)、川上憲人 (Work Organisation and Psychosocial Factors委員会委員長) が選出されました。さらに昨年の、国内選挙で日本セクレタリ

ーとして選ばれた堀江正知が承認されました。

また2015年の第31回国際産業保健学会大会は、大会に参加した正会員（アクティブメンバー）の投票により、韓国172票、オーストラリア127票、アイルランド64票で、韓国に決定いたしました。なお次回の第30回国際産業保健学会大会（ICOH2012）は、モンテレー（メキシコ）で開催の予定です。

以上の役員および主催国の投票結果に関しましては、ICOH日本人アクティブメンバーおよび日本産業衛生学会から多大なご支援をいただきました。ここに深く御礼申し上げます。日本から世界の産業保健に貢献するために、引き続きICOHの活動にご理解、ご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

ICOHには、産業保健の研究者だけでなく、産業医、産業看護職をはじめ、産業保健に係わる人ならどなたでも入会できます。ICOH正会員の会費は3年分が330スイスフラン（約29,000円）ですが、35歳以下の場合は3年間で66スイスフラン（約6,000円）と安く設定されています。ICOH正会員になると、会員証と会員バッジがもらえ、ICOHニューズレター（年3回発行）が郵送されてきます。また、ICOH大会（3年に1度）および33の科学委員会による国際会議の参加登録費が割り引かれます。さらに、産業保健の学術雑誌、ILOの出版物などが特別割引価格で購入できます。特に、ICOH正会員となることで、33の科学委員会のうち3つまでに登録し、世界の産業保健を学び、その発展に貢献することができます。入会申し込みはICOHホームページ（<http://www.icohweb.org/>）から簡単にでき、会費もクレジットカードで支払えます。なお、ICOHへの入会には正会員3人の推薦を受けて、Proposersの欄にその氏名と国名を記入する必要があります。ご存知のICOH正会員がおいでにならないければ、ICOH会長小木氏（Kazutaka Kogi）、理事川上（Norito Kawakami）、日本セクレタリー堀江（Seichi Horie）の名前を入力して、堀江宛（icoh@mbox.med.uoeh-u.ac.jp）ご連絡ください。

ICOH2009・ケープタウン紀行

田中正敏
（福島学院大学教授、
福島県労働保健センター顧問、
福島県立医科大学名誉教授）

産業衛生学雑誌の編集後記に産衛誌の活性化にむけ、社会トピック、産業保健上の問題点などについて会員の協力の呼びかけがされた。5月の福岡での産業衛生学会大会でICOHアクティブメンバーの会が開催され、席上、ICOH2009・ケープタウンの報告がなされ、各種の報告とともにケープタウン大会のビジネスミーティングの件に関しては、大会出席者に報告が求められた。私はケープタウン大会では「Aging and Work」と「Indoor Air」のセッションに発表、そして夕刻からのセッションごとのまとめとしてのビジネスミーティングに参加した。ミーティングには20名くらいの参加者で各国の状況、集会の情報、今後の会の方針などが話し合われた。以下に紀行としてケープタウンのICOH大会について述べる。

ICOH2009は南アフリカ・ケープタウンの国際会議センターにおいて3月22日から27日の日程で開催された。3月末は日本では年度末、また国内関連学会の開催期間ともオーバーラップしたこともあり、ICOHのビジネスミーティングの役員であっても欠席を余儀なくされた先生方もおられた。最終日に行われた総会での発表では、登録参加者は81カ国から1,362名、うち会員が445名、非会員907名で、ヨーロッパからの参加者が58%と多くを占めた。口頭発表は849題、ポスター発表は443題であった。日本からの登録参加者は43名と報告されていたが、実質的にはもっと多くの日本人が出席していたと思われる。当初から今回の参加登録費が早期登録であっても10万円以上と高額であり、まして当日参加費はかなりの高額となっていた。会場には警備や係りの人はいるが名札などのチェックはあまく、出入りは自由の状態であった。センターは市の中心部で海寄り、そして中央駅や南アフリカ最古といわれる建物であるお城からもそう遠くないところに在るモダンな建物で、玄関ホールに続く広い通路には植栽、窓側には蔦がカーテンの趣をなしていた。

最終日の総会では役員の選挙結果などの報告がなされ、次期会長には前副会長で、労研の小木和孝先生がアジアで初めて当選され、スライドを使い今後の方針、抱負などを述べられた。2名の副会長にはフィンランドと米国からの先生が当選された。理事の定員は16名でフィンランド、イタリアから各2名、オランダ、英国、ドイツ、スウェーデン、スイスから各1名が当選され、ヨーロッパ勢が多数を占めた。その他、南アフリカ、メキシコ、米国、アルゼンチン、そしてアジアからは中国、韓国、日本から各1名の当選であった。当選された川上憲人先生には常任理事として、事務局イタリアと協力しての活躍が期待される。前回3年前のイタリア・ミラノ大会の総会ではアフリカなどを含めフランス語圏からの理事選出についての発言が活発になされたことが思い出された。表紙、案内などには会場、日時などが英語とフランス語で併記されており、学会名ICOHとともにフランス語併記でCIST（Congrès International de la Santé au Travail）も記されている。

ICOH大会は3年ごとに開催され、開催地は立候補制で会員の投票により、次々回、6年後の開催地が決定される。次回、2012年は前回のミラノ大会でモンテレー（メキシコ）と決定されており、今回は2015年の投票である。立候補はソウル（韓国）、メルボルン（オーストラリア）、ダブリン（アイルランド）で、会員には既にメールや郵便でアピールがなされていた。大会の初日の総会で立候補各国からのプレゼンテーションがなされ、大会中には展示コーナー等で準備状態などアピールがなされていた。最終日の総会前日に投票が締め切れ、次々回はソウルに決定し、久しぶりのアジアでの開催となった。ミラノ大会の前はイグアス大会（ブラジル）であり、地域順も勘案しての会員の選択となったようである。ケープタウン大会では開発途上国からの参加者への補助、国内でのバックアップ体制などにより一般会員の参加費が高額となったこともあり、今回の立候補都市では学会運営費などについての詳細なプレゼンテーションがなされていた。総会の席でメキシコ大会主催者の挨拶のなかに、会費はケープタウンやミラノ大会よりも安く

といったことも付け加えられ、参加者からの歓迎を受けていた。

ブラジルにしても南アフリカにしても南半球で日本からは遠く、季節は逆である。ケープタウンは来年の世界サッカーの開催都市であり、開催に向けて日中は30℃を越える暑さのなか、そこ此处で道路などの工事が盛んに行われていた。出発前に日本で南アフリカの治安の悪化が取沙汰されていた。南アフリカ最大の都市ヨハネスブルグは不法移民が多く、中心地区は治安の悪化から夜はゴーストタウン化し、ホテルなどの都市機能も郊外に移転していると聞く。一方でケープタウンは比較的治安はよく、居住環境も整っていると聞かすが、その分物価は高く、東京並み以上のものである。ただし大会会場からそう遠くない中央駅付近などは暗くなると物騒な地区であるから注意が必要と現地のガイドの話であった。道路工事などに従事しているのは殆んどが黒人であったが、一般の職場での黒人と白人の雇用については、白人は25%以下、つまり職員が4人なら3人は黒人、1人が白人との決まりがあり、いきおい白人の定年は後進に道を譲ることから早くなる傾向にあると言う。社会保障のあまり整っていない社会にあって仕事、収入の面は厳しそうであった。

ケープタウンの象徴的な存在であるテーブルマウンテンは岩盤で形成された海拔1,087mの急峻な岩山で、山頂は名のとおりテーブル状に広く平坦である。山は気象状況により雲や霧に覆われ、特に午前中は雲が山頂付近にかかっている場合が多く、テーブルクロスの名がある。夕方5時過ぎテーブルクロスが取り払われ雲ひとつなく晴れ渡った。急いで籠のロープウェイ口に向かう。ロープウェイはゆっくりと眺望用に回転しながら上昇すること5分、山頂は広く遊歩道が整備されている。ここからの眺望はすばらしく、市街、湾が一望でき、海が広がり遙か遠く喜望峰まで望める。近く、沖合15kmには、かつて政治犯が収容されていた黒人専用の刑務所島、ロベン島が模型のように見える。島全体が南アフリカで初のユネスコ世界文化遺産に登録され、今では観光スポットになっている。夕焼け、夕日が刻々と沈み、周りは金色に映えた。

南アフリカの隣国、ジンバブエにはビクトリア滝がある。前々回の大会イグアスでの滝、以前のカナダ大会でのナイアガラ滝とともに世界3大瀑布といわれる。ビクトリア滝はジンバブエ国とザンビア国の国境を流れるザンベジ川の中流に位置し、幅1,700m、落差100mの大パノラマを展開している。水量の多い3月には、五つの滝が連なり、物凄い勢いで水が落下し水のカーテンを形成している。現地語で「雷鳴とどろく水煙」の名のとおりジンバブエ側からは水しぶき、水煙が風向きによっては辺り一面を包み、びしょ濡れとなり、現地のガイドの声も滝の大音響で聞き取りづらい。

対岸のザンビア側からの滝へはビクトリアフォール大橋を渡る。大橋の中央にはバンジージャンプポイントがある。ホテル

からのガイドはここで3回もバンジージャンプをしていると言いき、盛んにジャンプを勧める。ザンビア側から橋を渡って来た白人がトライするという。軀幹部に襷掛け、両足頸には分厚いプロテクターを巻き、そこにも太い綱が取り付けられ準備完了。彼は橋から突き出た台に立ち躊躇いもなく両手を広げ華麗に舞い目の前から姿が消えた。デジカメのシャッターを押し、被写体ははるか下のほうで豆粒ほどになり揺れている。聞けば彼はアメリカから来て、会社では衛生管理をやっており、ザンビアへは私と同じく一人旅と言う。彼と別れ、橋を渡って程なくしてザンビアの出入国事務所につき、ここから直ぐの所より川岸にかけて広い地域が国立公園になっている。ザンビア側のザンベジ川は滝つぼが目の前、川の冷たい水に手を浸す。岸辺からの平らな岩の上に立つとその数メートル先から流れが消え、滝が始まっている。吸い込まれそうになり立ちすくんだ。雷鳴は遠のき別世界のような雰囲気が漂っていた。

平成 21 年度新入会者

[北海道] 浅野神奈, 永野貴裕 [宮城] 栗山進一, 望月るり子 [茨城] 太田直子 [群馬] 山口達雄 [埼玉] 濱口裕江 [千葉] 長沼信治, 西村千穂 [東京] 阿部千鶴, 石渡可奈子, 今井文子, 氏田章子, 大木麻里子, 軽石優子, 神應百重, 北川純代, 毛塚三紀, 左達秀敏, 佐藤亜紀, 澤田美英, 高橋友紀, 瀧口文子, 田中仁恵, トバム祐子, 富尾 淳, 長松康子, 萩原寿枝, 樋口宏太, 増田哲也, 水上愛子, 森本真子, 山蔭純子 [神奈川] 東匡美, 飯田裕貴子, 池内龍太郎, 内村彩子, 尾之上さくら, 川上紗絵子, 川野晃一, 杉本千賀子, 武松晃子, 田島祐江, 谷澤有美, 傳田郁夫, 中田博文, 福田えり, 北條理恵子, 松丸克彦, 丸山若重, 山口さち子 [新潟] 高橋幸子, 筒井光廣 [石川] 山村真裕美 [山梨] 長坂勝弘 [長野] 菅根一男 [岐阜] 田中新一郎 [静岡] 菊地慶子, 吉川裕之 [愛知] 岡本諭美, 奥村秀則, 小栗太一, 尾崎伊都子, 佐々木恵, 柴田恵理子, 日笠ちはる, 堀知絵美, 明神洋子 [三重] 加藤由佳 [滋賀] 一瀬葉子, 保田淳子, 輪田茂樹 [京都] 田野中恭子, 中野浩一 [大阪] 磯島康史, 上瀧里美, 金光文和, 黒木裕子, 甲田美香, 弘野慶次郎, 後藤豊子, 作本貞子, 城下知子, 鈴浦千絵, 高野邦子, 巽 愛, 並河 啓, 日向和美, 廣瀬順弥, 松浦 愛, 南口尚代, 米山貴子 [兵庫] 大西圭以子, 中村喜代子, 橋本英治, 福元かほり, 宮上純子 [奈良] 上田晴三, 三浦康代 [岡山] 西村泰光, 原野かおり [山口] HOSSAIN MD. MAHBUB [徳島] 山根重里 [高知] 野口由美 [福岡] 入江正洋, 河野多恵, 廣田達哉, 益吉久良麗, 村岡亜紀子, 村田篤彦, 室井美樹 [佐賀] 大石浩隆, 益田和幸, 矢野秀郎 [熊本] 白鳥多知子, 武智詩子 [大分] 有田 眞, 寺尾英夫 [宮崎] 上杉自子, 田中伸明, 丸岡 愛